



横浜市立大曾根小学校

学校だより 5月号



学校HPはこちらから！

令和8年4月30日

TEL 542-1785

FAX 541-0949

教室は小さなドラマの連続

校長 小嶋 千里

新学期が始まってひと月。最初の緊張が少しずつほぐれ、子どもたちの様子や各学級の個性がより鮮明に、見えるようになりました。

学級は、担任と子どもたちが紡ぎあげる、いわば『ドラマ』の連続によって成長を遂げていきます。それぞれの学級には、雰囲気というか、匂いというか、その学級ならではの空気を感じられるようになります。『文化』と言ってもいいかもしれません。

この『文化』によって、子どもたちの学びも変化していきます。つまり、自分だけが単独で成長しているわけではなく、他の子どもたちの成長とともに、それぞれの成長が促されているのです。



「おおそねグッドくん」子どもたちは通りにかき「ポンポン」していきます。

学級文化が高まってくると、「がんばって今よりも成長しよう」という雰囲気がでてきます。以前のことになりますが、こんな光景を目にしました。…学習をした後の教室のことです。担任が、子どもたちに向かって、教室が散らかっているのでみんなできれいに片づけましょう、と呼びかけました。すると、ある児童が「え～、面倒くさい。」と口にししました。もう一人の子も「ぼくが散らかしたんじゃないもん。」と続けました。よくあるやり取りです。そのあと、この担任は、子どもたちの手を止めさせました。そして、静かに話を始めました。『担任の本気』を感じた子どもたちは、担任を見つめ、話を聞いていました。担任は、静かな口調で語り始めました。話の中身は、「どんな道を選ぶか？」というものでした。子どもたちにも分かりやすい、平易な表現でしたが、困難な道を選択した後に訪れる清々しさや自己有用感の高まりについてのものでした。

この担任の話が終わった後、子どもたちがとった行動は素晴らしいものでした。先ほどの二人も、生き生きと片づけを進め、自分の周囲だけでなく、友達のところまできれいにしていました。他の子どもたちも同様です。笑顔で片づけに取り組みはじめました。…しばらくしてこの学級に戻りました。すると、自分の席に座り、にこにこしながら、担任から褒められている子どもたちの姿がありました。

担任と子どもたちが紡ぐ、小さな『ドラマ』の連続によって、他の視点に気付いたり、考えを深めたりしながら成長を遂げていく学級の姿を目の当たりにし、嬉しく思いました。

今週から個人面談が始まります。担任たちが子どもたちと紡ぎ始めたそれぞれの教室での「物語」のはじまりとなる出会いの時期、ご家庭での様子や学校での様子を少しでも共有できたらと思います。ゴールデンウィークは4月の緊張や疲れを和らげる時期です。皆様どうぞご自愛ください。

5月もどうぞよろしくお願ひいたします。